

## 2月の植物

### ウメ (バラ科アズノ属)

*Armeniaca mume* (Siebold et Zucc.) de.vriese

ウメは奈良時代に薬用として中国から渡来したが、早春に先駆けて香気のある花が咲くので「春告花」として、古来より人々に人気があり、万葉集に104首も詠まれている。また、「寒巖の三友」として松、竹とともに慶事の植物とされ、門松にも松竹梅を飾る。品種も多く、白梅、紅梅、雲龍梅、シダレウメなど300種あまりが知られている。

落葉中高木で、花弁は5枚、多数のおしべと1本のめしべがあり、萼は反り返らず、花柄はほとんど無い。葉は互生し、葉形は卵形で葉先が急に狭まり細く延びる。果実は6月に黄色く熟して落ちるので、この時期を「入梅」という。自家受粉を嫌うので、結実させるには2品種以上を植える。

名前の由来は鳥梅の音読みで「うめい」から「ウメ」となったといわれるが、平安時代から明治時代には「ムメ」となり、「ウメ」か「ムメ」かの論争があり、学名は「mume」とされている。生薬名は「ウバイ」。果実の成分はクエン酸などが含まれ、解熱、去痰、疲労回復などの薬効があり、梅干や梅酒に用いられている。熟すまでは有毒成分が含まれ、動物による食害対策の生存戦略である。

梅林は各地に知られ、県内では武雄市の御船丘梅林や小城市の牛尾梅林が有名である。また、多久市専称寺の「核割梅」、佐賀市高伝寺の梅も知られている。菅原道真の「飛梅」に関する言い伝えは鳥栖市妙善寺（戦後枯死）、佐賀市蛸久天満宮、牛尾神社（数年前枯死、現在幼木を植栽）に記述がある。花言葉「高潔な心」。

(文責：井手義信)

(参考文献) 薬草観察ハンドブック、花の歳時記大百科、佐賀の植物方言と民俗、佐賀の街路樹・庭園木



2019.2 小城市牛尾梅林